

テーマ 1 「国際平和のための外国語学習」

テーマ 2 「ペルーの料理と嗜好品」

第 152 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2022 年 5 月 14 日 (土) 15:00 - 17:00

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：岡 あゆみ

TEMA 1: "El aprendizaje de lenguas extranjeras para la paz internacional"

TEMA 2: "La gastronomía peruana y sus variantes populares"

CLII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Sábado, 14 de mayo de 2022, de 15:00 a 17:00

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Ayumi, OKA

テーマ 1

国際平和のために外国語学習 (岡 あゆみ)

今年度の TADESKA の一つ目のテーマは「新しい時代において、教育機関で外国語を学ぶ意義とは？」ですが、「国際平和のために外国語学習」というタイトルで発表させていただきました。発表では至らぬ点が多かったと思いますが、その補足も兼ねて以下の要旨を提出させていただきます。

国際平和のために外国語学習は重要である

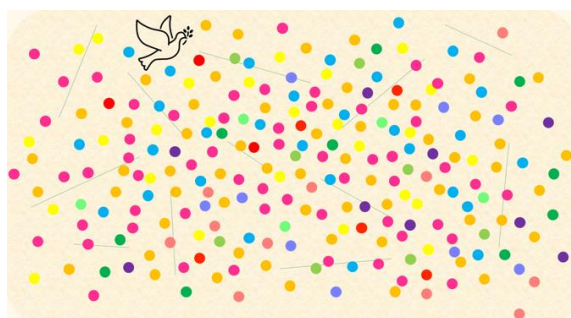
偏見はその対象となった人々を苦しめ、社会的差別といった問題を引き起こし、民族の争いなどを生み出す原因となる (上瀬 2002) と言われます。昨今でも、在日外国人に対する差別が問題になることがあります。このような見解を取り入れた場合、差別を引き起こす原因は民族の争いを生み出す原因と共通していると考えられ、ますます積極的に解決していくべき問題であると言えます。また、差別を引き起こす原因である偏見に取り組んでいくことは、同じく、争いを生み出す原因でもある偏見にも取り組むことになり、すなわち、国際平和のための取り組みにもなると言えます。

では、差別を防ぐために何ができるのでしょうか。これには、個々の心の中にある (生じる)

偏見を差別という形で利用させないようにする必要があると思います。ご自身の経験を振り返ると、善良な生身の人間を一人でも知っている、その国の人々を悪いイメージだけで捉えることがなかったり、もしくは、他国の良い人や良いところを身近なものとして知っている、その国の人々を悪いイメージだけで捉えることがないというようなことはありませんでしょうか。私自身は、このように思案した上で、外国語教育で何ができるかを考え、辿り着いたのが次の提案であります。

教員は担当の言語圏の人々・文化・国などに関して、できる限り良い面を、できる限りリアルに伝えていく。「教員」というフィルターを通して伝えることになるが、それでも良い。

外国語（ここでいう外国語とは「言語+X」）を学ぶ人が今後ますます増えていくことで、個々人としては、日本語と英語に加えて、プラス一言語程度しか外国語を知らないとしても、全体としては、多様な外国語を知っているという状況を作ることができるのではないのでしょうか。そして、これが差別のない社会や、国際平和へと繋がっていくと期待できないのでしょうか。



学生は国際平和のために外国語（言語+X）を学ぶ意義がある

外国語を学ぶ意義については、実用性が重視される傾向がありますが、実用性を重視した場合、目先に使用する機会がない場合、学生はモチベーションを保つことが難しいということがあると思います。また、多文化共生社会のための外国語教育と言われることがありますが、この場合は、日本での学生をとりまく言語状況を考えた場合、なかなか外国語学習を自分ごととして捉えるのが難しいと思われまます。

しかし、外国語学習を「国際平和のための外国語学習」として積極的に位置付けることができれば、外国語学習を自分ごととして捉えやすくなり、モチベーションも保ちやすくなるのではないかと思います。争いによって日常という平和が奪われた場合、誰も無関係でいることはできません。できることは小さなことですが、「平和は1日にしてならず」です。小さなことでもできることに取り組んでいくことが重要だと思います。

外国語学習は「言語+X」であってこそ（学ぶ意義も増）

外国語の授業において、教員が学生に言語そのものを教えるだけでなく、人々・文化・国などについても積極的に伝えていくことで、国際平和に貢献する人間を育てることができるのではないのでしょうか。また、学生も言語そのものを学ぶだけでなく、人々・文化・国などについても積極的に知っていくことで、国際平和に貢献する素地を自らの中に育てることができるのではないのでしょうか。

制度的な支援の重要性と伝える内容について（オルポート（1968）から考えたこと）

外国語教育を通して、他国や異文化への理解を増進することで、偏見を低減することが可能であるかについては検討する必要がありますが、仮に外国語教育によって、そのようなことが可能であるとしても、それだけでは十分ではなく、制度的な支援によって是認されていることが大切であると考えられます。

また、実際どのような X（内容）を学習者に伝えていくかについては、偏見を増大させないように吟味する必要があります、今後の課題になっていくと思われます。

テーマ 2

ペルーの料理と嗜好品（岡 あゆみ）

今年度の TADESKA のもう一つのテーマは「スペイン語圏なんでも紹介」ですが、「ペルーの料理と嗜好品」というタイトルで発表させていただきました。

ある学生が「知られざるペルー料理の美味しさを、私の周りの人から広めたい」という思いから制作した冊子を紹介しましたが、テーマ 1 との関連で、フィルター、すなわち、伝える者の思いがどういうものであるかによって、受け取る印象が異なってくるということを体験していただきたいとも思い、こういう形を取りました。

具体的に紹介させていただいたのは、以下の通りです。

よく使用する調味料と日本での入手方法／食材と原産であることについて／ペルーが美食の国といわれる理由／モルモット（クイ）を食べること／アヒについて（アヒ・アリージョ、ロコト、アヒ・パンカ）／エストファード、セビーチェ、カンチャ、アヒ・デ・ガジーナ、ロモ・サルタード（醤油使います!）、チチャロン、アロス・コン・レチェ等々／お米の種類と炊き方のこつ／絶品スープ（アドボ、カルド・ブランコ、チュペ・デ・カマロネス）／お肉や野菜の市場、パン屋さん／犬の多さ／白い街アレキパとアレキパの食習慣について／石灰石シジャール／インカ・コー

ラとチチャモラーダ／クリスマスの定番（パネトンとチョコラターダ）／聖なる果
実ルクマ／動くアイス屋さん D' Onofrio／チョコレート屋さん La Ibérica／ペル
ーのパーティー

～紹介した冊子の一部切り抜き～



ロコト *Recoto*

一見、パプリカのような食べ物ですが、これは唐辛子。とても辛
いので、食べる際にはご注意ください。通常は赤色で小やな果
の種類がありますが、黄色、緑、オレンジ色のものもあるそう。



ロコト レジューノ

ロコトの中にお肉とチーズをつめた料理。見た目の通り辛いですが、とても美味しいです。
日常的ではなく、特別な日に食べられることが多いそう。



祖父の彫刻 ヤナフマラ広場にて

特に参加者のみなさまには、「ペルーの美食文化を知った今、ペルーが貴方にとって特別な
国となっていればとても嬉しく思います」（学生の言葉、冊子からの引用）。ご参加いただき
ありがとうございました。